

II. 新人看護職員研修内容に関すること

1. 研修期間 (12) か月

2. 自施設の研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※3 (該当項目に○を付けて下さい。)		研修場所 (※4)		時間数 / 日数	研修内容
		講義	演習				
4 6	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師として必要な基本姿勢と態度を身につける ・技術的側面の基本を身につける ・管理的側面の基本を身につける 	○	○	研 修 室 ・ 病 棟	研 修 室 ・ 病 棟	45 時 間 / 23 日	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利と看護者の責務・看護者の倫理綱領 ・接遇・病室整備、療養生活環境調整 ・食事介助・経管栄養・栄養注入ポンプの使い方・自然排泄の援助 ・膀胱内留置カテーテル挿入と管理、導尿・摘便、洗腸 ・移動の介助・体位変換 ・廃用症候群予防・行動要注意への援助・口腔ケア・おむつ交換 ・清拭 ・入浴介助・洗髪 ・整容 ・吸引 ・酸素吸入 ・薬液吸入・人工呼吸器の管理・体温調整・皮下注射 ・筋肉内注射・点滴管理・薬剤準備、ボトル交換、挿入部の固定 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの使い方・経口与薬 ・外用薬 ・CV挿入介助・点滴静脈内注射 ・輸血の準備、輸血中と輸血後の観察・急変時の対応 ・チームメンバーへの応援要請等・BLS,AED ・バイタルサインの観察と解釈 ・身体計測 ・パルスオキシメーター ・検体採取と取扱い・血糖測定 ・静脈血採血 ・動脈血採血介助・モニター心電図 ・12誘導心電図・電法・疼痛評価・スタンダードプリコーション ・無菌操作・医療廃棄物の取扱い・誤薬防止の手順に沿った与薬 ・患者誤認防止策の実施 ・転倒転落防止の実際 ・薬剤、放射線暴露防止策の実施・医療安全対策、組織の体制 ・職員を守る体制 ・事故防止策・発生時の対応・防火、消火設備 ・アクシデント、インシデントレポート ・消防訓練の参加 ・災害時の初期行動 ・個人情報保護・診療情報の取扱い ・記録・看護基準、看護手順・優先順位を考慮した時間管理 ・報告、連絡、相談・薬剤の請求、受領、保管、返納 ・破損時の取扱い・血液製剤の請求、受領、保管、返納、廃血 ・医療機器、医療器具の適切な取扱い ・看護用品、衛生材料の整備、点検 ・事務用品、消耗品の適切な取扱い ・物品破損、紛失時の対処 ・定数管理と点検 ・患者負担の視点でのコスト管理 ・費用対効果の視点での物品管理
7 9	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的側面の基本を身につける 			研 修 室 ・ 病 棟	研 修 室 ・ 病 棟	4 時 間 / 3 日	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア ・止血法 ・フィジカルアセスメント
10 3	<ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員として基本的なケアを実践できる 			研 修 室 ・ 病 棟	研 修 室 ・ 病 棟	3 時 間 / 3 日	<ul style="list-style-type: none"> ・実践のふりかえり・褥瘡の予防、リスクアセスメント、体圧分散等 ・消防訓練の参加

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○印を記入して下さい。両方に○印を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

看護部長・・・研修責任者
当該病棟師長・・・教育担当者
新人担当病棟看護師・・・実地指導者
看護部門の教育委員会で、新人職員研修に関する教育計画、実施、評価を行う。

4. 医療機関受入研修を知った方法

医療機関受入研修を実施する施設から、前年度の3月上旬に看護部長・施設長宛の研修案内文書で知った(プログラムの郵送、電話、FAXなど)。
※前年度も同様の研修を受けていたため、熊本赤十字病院より計画があることは事前に案内があった。

5. 医療機関受入研修に参加させることを決定した理由

自施設では、人的、物的資源で研修が困難な内容があったため。

6. 医療機関受入研修に参加させるにあたり準備・調整したこと

新人看護師及び引率する教育担当者の看護師の勤務調整

7. 医療機関受入研修に参加している研修テーマとその理由

参加理由・・・自施設では人的、物的資源で研修が困難な内容であったため。また、少人数では、計画しにくい内容であり、指導者も一緒に参加することで、その後の指導に活かすことができる。内容は以下の通り。

【第1回】

- ① 感染防止1 (スタンダードプリコーション): 感染管理認定看護師による講義と手洗いの実際と手洗いチェッカーを用いた体験
- ② フィジカルアセスメント: 救急看護認定看護師による講義とシュミレーターを使った体験
- ③ 薬剤の基礎 I : 薬剤師による業務、処方箋・注射箋の意味の説明
- ④ 摂食嚥下の理解: 言語聴覚士による、ポジショニングと嚥下の観察、食事介助の実際と注意点を学ぶ。

【第2回】

- ① 感染防止2(感染経路別予防策など): 感染管理認定看護師による講義と手袋・エプロンの着脱の体験
- ② 尿道留置カテーテルの基礎知識と管理: 感染管理認定看護師による講義とシュミレーターを使った体験
- ③ 急変時の看護1(一次救命処置シュミレーション): 救急看護認定看護師による講義、心肺蘇生シュミレーションを体験する。

【第3回】

- ① 急変時の看護2(胸部の聴診と呼吸音の把握・二次救命処置): 救急看護認定看護師による講義とシュミレーターを使った演習、バックバルブの使い方、挿管介助について体験する。
- ② 看護倫理: 看護師の倫理綱領を理解する認定看護師による講義

【第4回】

- ① 医療安全: KYT(危険予知トレーニング)を事例を用いて行う。
- ② メンタルヘルス: ストレス対処法を体験

【第5回】

- ① 急変時の看護3(急変時の対応): 事例検討
- ② 麻酔の基礎知識: 手術室看護師による講義
- ③ ポートフォリオの作成: 半年の学びを振り返る。

8. 医療機関受入研修と自施設の研修プログラムやOJTとの連動について(自由にご記入ください)

引率した看護師が、当該部署の教育担当者に報告し、不十分である所を補足、修正とフォローアップを行う。自施設の研修プログラムで研修をする際、医療機関受入研修との意味付けを行う。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価方法(医療機関受入研修施設からのフィードバック等の連携も含めて、自由にご記入ください)

レポートや、研修の振り返り会での発言や、日々の実践の観察で評価を行う。

Ⅳ. 事業の評価等に関すること

1. 医療機関受入研修の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

看護部教育委員会で、年間の新人看護職員研修の振り返りの際、研修の効果を確認したり、評価を行う。

引率者が同行すると、自施設の教育プログラムとの連動や教育効果が明確になる。

また、新人看護職員だけでなく、受け入れ施設の教育担当者との交流で、さらに自施設の教育に反映できる。